



日台稲門会

NEWS LETTER 第13号

平成 19年(2007年) 民国 97年

12月20日 発行

発行 日台稲門会事務局

編集 白鳥・石川・小野間・齋藤

防衛省疑獄で暮れそうな気配の年の瀬です。単なる贈収賄問題で政治は後追いするだけというのがなんともしつこい日本の現状、政党あれども無策の極みです。新年は見識溢れる日台稲門会ニュースレター冬号をどうぞ。

日台稲門会・台湾校友会NEWS

早稲田大学台湾校友会年次総会 盛大に開催される

(11月24日(土) 台中・明德女子高級中学 明楼4階)

11月24日(土)12:00台北駅に、前日来台した校友、台北稲門会会員、台湾校友会会員が集まり、2台のバスに分乗し台中に向かった。当日の天気は晴れ、強風が吹くが温かい陽気であった。途中サービスエリアで一度休憩を取り、15:00頃全国大飯店に到着、チェックインした。暫時休憩後再びバスで総会会場の明德女子高級中学に出発。到着・受付後、今年度の大会委員長で本校理事長の劉清標氏の案内で構内の施設を見学した。明德女中は創立53年、97クラス、5000人の学生を有する台中屈指の学校である。キャンパスは広く、美しく、地下に位置する体育館の上には芝生を植え付け、枯山水の庭園が作られている。教育設備も充実。校門正面には本校の教育理念『愛校、尊師、勤勉』の教訓が掲げられていた。白井克彦・早稲田大学総長一行が到着後、会場前で出席者130名の記念撮影が行われ、宴会中に全員に届けられた。

総会前のアトラクションとして、本校学生による踊り、琴の演奏、中国古典のファッションショー、日本の歌の合唱等の歓迎を受けた。定刻、董炯熙会長の開会挨拶で定時総会開会、順次式次第が進められた。胡志强・台中市長からも挨拶があり、台中市のPR、ご子息の早稲田大学での留学生活も紹介された。さらに台中で最も有名な銘菓「太陽餅」を全員へのお土産として提供下

された。ユーモアと歯切れのよい挨拶は日本の政治家にはない親しみと魅力を感じた。その後日本から参加の各稲門会の紹介、お土産贈呈、早稲田大学125周年行事寄付目録贈呈、校友会事務局報告が行われ、総会を終了した。

場所を校内の明楼餐廳に移し、二部の懇親会が開催された。正面にカラオケ用の大画面スクリーンを配置した舞台が設けられ、主賓席を中心に15の円卓が配置された。高橋徹・台北稲門会々長のご発声で全員が乾杯し宴会がスタートした。各テーブルには美味しい台湾料理が次々と運ばれ、テーブル毎や他テーブルとの交歓が賑やかに始まった。各稲門会代表の挨拶が終わるとカラオケ大会に移り、有志が次々登壇し得意の歌を競った。殆どの台湾人が日本の歌を上手に歌うのには驚いた。当会からも大嶋、神田両幹事が代表として十八番を披露した。宴も終盤となり、行政書士稲門会山下副会長の指揮のもと肩を組み校歌を斉唱、来年の再会を約して閉会した。当会からは一色、藤井、神田、菅、江、大嶋、小野間の7名が参加した。

小さいがこのような交流の積み重ねが真の日台交流の懸け橋になることを改めて痛感した夜であった。

翌25日はゴルフ組と観光組に分かれ娯楽活動を楽しみました。(事務局 小野間記)



慶祝早稲田大學創校125週年紀念
台灣校友會2007年度大會 2007.11.24

台湾校友会2007年総会開催報告 http://www.waseda.org.tw/jp/colum_rep/071205/index.html

「台中市について」

台北稲門会 / 齋藤 征二

アジア野球選手権が北京オリンピックへの出場権をかけて12月1日から行われましたがその会場となったインターコンチネンタル球場(台中洲際棒球场)のある都市が台湾台中市です。

この台中市は人口105万、台湾第三の都市ですが、1999年9月21日の大地震(震源地の名を取り「台湾集集地震」と命名されました)で大きな被害を受け台中日本人学校も建物はおろかグラウンドまで壊滅的な状態になり、後に別の場所に建て直されたほどです。

この地震の際、発生当日の夜に日本の救助隊が数頭の救助犬を連れて台中市に到着し、不眠不休の救助活動を行ったことは今でも感謝されています。

(どの国よりも早く被災地に入り救助活動を開始したのが日本でした。)

また日本統治時代、台中の初代市長を務めた金子恵教氏をはじめ、歴代の為政者が優れていたためか、台中には日本びいきの方々が多く、日本人に大変優しい土地柄です。

台中市役所の庁舎は日本時代の1920年に落成した

「台湾新幹線試乗記」

11月25日台湾新幹線に初めて乗った。

台湾校友会総会翌日の娯楽活動ゴルフ(台中国際ゴルフクラブ)に参加後、台北に帰るバス組に分かれ、私と神田幹事はタクシーで新幹線の台中駅に向かった。

ゴルフ場からタクシーで約40分、運賃は500元弱。新幹線の台中駅は在来線の台中駅とは別の場所にあり、日本で言えば横浜駅、新横浜駅の関係である。駅周辺には店もなく近代的建築の台中駅が忽然と聳えていた。駅構内は天井が高く広いエントランスロビーが広がり、電光掲示板、切符自動販売機、エスカレーター、自動改札機が整然と配置されており、第一印象は空間にゆとりがあり、清潔で明るいという感じであった。前売券を購入していたので、自動改札を通りプラットホームに上った。ホームからは遠くに台中の街並み、隣接する在来線の新烏日駅が見えるが、周辺は全く未開拓であった。他の新幹線の駅も同様な様子と聞いているが、今後駅周辺が発展し、数年後には新横浜のように新しい町が誕生するのではないかと、15:57定刻にオレンジ色の車体の新幹線が到着した。乗客は整然と並んで乗車、自分の指定席に着席、フランスや中国など道徳のない国と大違いの感があった。車内販売、車内清掃、車内掲示は日本方式で、直線が多いせいか車体は殆ど揺れず快適であった。残念ながらスピードがどのくらい出ているかは確認し忘れた。普通車の車内

建物を今も使用しておりますが地震の被害は軽微でした。また鉄道の台中駅も1917年に改築された当時の姿のまま現在も使われております。台中市政府は1924年竣工ですが竣工当時の赤煉瓦が国民党政府時代に白く塗り替えられてしまっておりますので、日本時代のおもむきとは少し違っております。しかし地震の被害は軽微でした。

つぎに台中付近の見所を紹介しますとまず台中公園があります。この公園も1903年(明治36年)日本時代に出来ました。比較的新しい施設としては国立自然科学博物館(1986年落成)、豊楽彫刻公園(1994年建設)、国立台湾美術館(1988年開館)、大坑風景区(1980年完成、1990年拡大)、台中民族公園(1990年から解放)などもあります。少し足を伸ばしますと日月潭があります。台湾で最大の湖であり今回、早稲田大学台湾交友会総会翌日の観光コースに選ばれました。

日本からの観光客は台北、高雄、台南や花蓮に行くことが多く、台中はスキップされることが多いのですが、是非機会をつくって、文化の町台中、日本時代の建造物が沢山残っている台中、を訪れて見て下さい。

小野間恒夫

は青い色に統一され、清潔感を感じさせた。乗客は静かに着席しており、時々ごみ収集員が回って来、車内には塵一つ落ちてなく、車内アナウンスも静かで日本の新幹線より快適であった。台北までは新竹、桃園、板橋の各駅に止まり1時間で到着した。料金は700元、65歳以上の人は半額と言う嬉しい値段である(外国人もパスポートを提示すれば適応)。

JTB11月時刻表には台湾新幹線特集が掲載されており、切符の買い方や全駅の紹介、時刻表等が載っている。片倉佳史氏の『台湾新幹線で行く台南・高雄の旅』も刊行されている。台湾に行く機会があれば、これらの本も参考に是非試乗してみてください。台湾の良い思い出になります。



台湾校友会訪日歓迎懇親会を開催しました



(参加者：会員17名、行政書士会2名、茅ヶ崎稲門会1名、台湾校友会・台北稲門会7名、留学生9名 計36名)

「懇親会に参加して」

この間の台湾校友会・台北稲門会訪日歓迎懇親会に参加させて頂きました、早稲田大学大学院・商学研究科二年の謝宛蓉と申します。

今回は後輩の陳昱竹さんから懇親会のことを聞き、初めて懇親会に参加することになりましたが、当日は何故か道に迷ってしまって、懇親会の場所が見当たりませんでした。「遅刻しちゃう」と大パニックになったところで、ずっと店の近くで待ってくださった稲門会幹事の丸山さんが中国語で「謝さんですか？」と優しく声をかけてくださいました。本当に助かりました。

遅刻の関係で他の留学生と一緒に座れなかったものの、同じテーブルの小野間さん、齋藤さん、丸山さんと守屋さんなどの方と美味しい天ぷらを食べながら、いろいろな貴重なお話を聞かせて頂きました。初対面

「早稲田との物語」

初めまして、陳昱竹と申します。台湾大学日本語学科出身、早稲田大学国際教養学部在学中です。早稲田との出会い、稲門会との出会いは偶然ではなく、必然だと思っています。

去年12月、台湾大学で行っていた留学生試験を受けた時、どの姉妹校に出願したらいいかと迷っていた私は東京の名門に行きたいという理由で早稲田に出願し、幸いに受かることができました。その後、アルバイトしていた「百郷」という店で、稲門会の幹事である渡邊さんと知り合い、早稲田の歴史、環境、名物などを紹介してもらい、台北稲門会の稲子会まで招待してもらいました。早稲田大学のOB、OGたちが皆後輩に親切にするというのはここでの人々への最初の印象です。

九月、一年間限りの早稲田生活が始まりました。創立125周年に間に合った私は学校と商店街の豪華な飾り、創立記念日の人出、外国から帰国したOB、OG達などに驚きました。学校の誕生日をそこまでお祝

(10月20日(土) 稲ぎくまくと 日本橋店)

早稲田大学125周年記念式典や稲門祭、ホームカミングデー等諸行事に参加のため、台湾校友会・台北稲門会の皆様が訪日されました。当会ではこの機を利用し、歓迎懇親会を開催いたしましたところ多数の会員に参加頂き、台湾の校友と秋の夜長を、本格的な天麩羅料理と銘酒で楽しんで頂くことができました。また留学生にも多数参加頂きましたので、特にお二人の感想を紹介します。

早稲田大学大学院・商学研究科二年 謝 宛蓉

の人ばかりで最初は少し不安だったのですが、稲門会の方は親切に中国語で話してくださったお蔭で、緊張が吹っ飛びました。

2時間の懇親会の中で一番印象深かったのは、何かのきっかけで台湾や日本が好きになり、早稲田大学在学中も卒業後もずっと国際交流をなさっている方がたくさんいらっしゃることでした。自分も英語と日本語を勉強してからいろいろな国の人と国際交流をしているのですが、今回の懇親会に参加して、国際交流は「数」ではなく、「長続き」が重要だと改めて分かってきました。これからはもっと国際交流をしながら、せっかくできた「ご縁」を大切にゆきたいと決めました。いろいろ本当にありがとうございました。

早稲田大学国際教養学部 陳 昱竹

いする必要があるか、という疑問がいつも頭の中に溢れていました。早慶戦に行き、ハンカチ王子らのお蔭で、春秋三連覇が達成し、伝統的な提灯パレードに参加できました。皆早大生としての誇りを持っているからこそ、わざわざ台湾から飛行機に乗って125周年記念日に参加しました。皆この学校を愛するからこそ、人が集まり、神宮球場から大隈講堂まで歩いてきたのだと納得しました。

ここに来て僅か2ヶ月間ですが、早稲田に通えて良かったと思っています。親切にしてくれた皆、受け入れてくれた高田馬場への感謝は言葉で伝えられないのでいつもお掃除プロジェクトというボランティア活動に参加し、自分の力でこの町を綺麗にしたいです。

『集まり散じて人は変われど、仰ぐは同じき理想の光』
ここでの留学生活が終わる日が必ず来るが、私と早稲田との出会い、稲門会との出会いは始まったばかりです。ここでの体験、思い出、学んできたモノ、きっと一生忘れられぬ物と信じています。

岩永康久会員が台湾政府より「経済奨章」を授与されました

「お世話になった方々へ ～ 台湾政府「経済奨章」受賞、皆様へのお礼」

岩永 康久



過日9月14日、経済部大禮堂において「経済奨章」の表彰を受けました。

9月18日付けの日経産業新聞、経済部官報に記載されていますが、写真はその関連です。

今回の受賞は「台湾の経済・貿易発展、台湾への投資促進に対する貢献」が対象になった由ですが、如何ほどの貢献が出来たのか、はなはだ自信を持っていない所です。

台湾政府にかかる表彰制度がある事も知りませんでしたし、最近では日本人以外の受賞が続き、日本人としては4年ぶり、製造業以外の産業では初めてと聞きました。

私自身がかかる対象になるとは思っても見ませんでしたし、連絡を受けた時は驚きと、戸惑いを覚えました。

これもひとえに皆様のご指導、ご協力があったればこそと、感謝の気持ちを込め、お礼申し上げます。

私自身二度の台湾駐在、合計12年間台湾に住み、台湾の方々の穏やかな人情味に触れながら、沢山の方々にお世話になりました。よく使う言葉ですが、台湾を「第二の故郷」と感じる程になりました。

そしてこれまでの経験を通じて強く感じるのは、「台湾の経済発展は台湾安定の基礎、そして日本安全の要、台日は共存関係」と言う事です。今後とも両国のために何かお役に立てる事があれば、微力ながら努力を



続けていきたいと思っております。

以上簡単ですが、お礼の方々ご挨拶申し上げます。

追伸：本件に絡みお祝い等は固く辞退申し上げますので、ご理解、ご協力お願い致します。

石川公弘・本会副会長 叙勲祝賀会開催

(10月14日(日) 海老名市オークラフロンティアホテル海老名)

ニュースレター第12号でもご案内しましたが、石川公弘・本会副会長がこの春、旭日小綬章を受章され、これに伴い神奈川県海老名市で開催された「石川公弘氏の叙勲を祝う会」に約200名が参加しました。石川副会長は1967年から1995年まで28年間に渡り大和市議会議員を務め、その間2期にわたって市議会議長も務め、地方政治の進展に貢献されました。

会は、発起人代表の富沢篤鉦・元衆議院議員による石川副会長の功績の紹介に始まり、甘利明・経済産業大臣、大木哲・大和市長、朱文清・駐日代表処新聞広報部長、何春樹・台湾高座会副会長ら来賓による祝辞が続き、李登輝前総統からのメッセージや李登輝友の会本部役員の挨拶がありました。また日台稲門会々友スヴェトラナ・ヴァシリユークさんによるロシア歌謡が披露され、祝賀会は盛会の裡に終了しました。

本会からは小野間、一色、上野、大嶋、木村、眞鍋、国方、北村、スヴェトラナ・ヴァシリユーク(敬称略)の9名が参加しました。(担当 齋藤記)



お孫さんからの花束を受け取る石川副会長夫妻

早稲田大学「台湾文化週間・台湾の夜」レセプションに参加しました

(10/27(土) 早稲田)リーガロイヤル・ホテル東京

早稲田大学創立125周年記念行事の一つとして「台湾文化週間」が10月27日からスタートし、これを記念してレセプションが開催されました。当会からは夫人同伴の神田幹事はじめ多数ご招待頂き、楽しい一夜を過ごしました。

許世楷・台北駐日経済文化代表処代表は、早稲田大学台湾研究所設立の経緯、これまでの講演会などの交流活動を説明し、今回の「台湾文化週間」実現につながったと挨拶されました。また、この「台湾文化週間」には、台湾からの留学生の寄与するところが多かったことを挙げられました。

さらに許代表は、台湾の世論調査で、最も台湾をイメージするものが「布袋戯(台湾人形劇) 玉山(ニイタカヤマ) 台北101ビル」であることを紹介し、これは日本の「歌舞伎、富士山、東京タワー」に相

当すると述べられました。

白井克彦・早稲田大学総長は、「台湾文化週間」は早稲田大学創立125周年記念行事中代表的なイベントであり、また「早稲田大学がアジアの大学、世界の大学として発展するにあたって、このようなイベントが行われることは極めて意義深いことである」との認識を示されました。

引き続き江夏健一・早稲田大学台湾研究所所長、早稲田大学出身の玉沢徳一郎・衆議院議員らが登壇し、挨拶を述べられ、懇親会に入りました。

政治評論家・宮崎正弘氏、台湾映画の紹介に尽力されている映画評論家・田村志津江さんの顔もあり、盛会の裡に終わりました。(担当 齋藤記)

早稲田NEWS

創立125周年記念の写真を頂きました(大嶋幹事撮影)



環境に優しい鳩です



応援部のチアリーダーズ



大隈候から講堂を眺む



記念式典ゲート

「早稲田、ついに団体戦を制す！」第33回早慶ゴルフコンペ結果報告

(11月3日(六) 老淡水)

台湾でやり残したこと・・・『早慶ゴルフコンペ団体戦勝利！』
～第33回早慶ゴルフコンペ参戦報告(於：台湾ゴルフクラブ・老淡水)～

市川 智



台湾での約4年間の勤務を終え、2005年帰任後早いもので2年半が過ぎました。

台湾在勤中は、春秋年2回盛大に開催される早慶ゴルフコンペは、私にとっての最大の楽しみで、またこの地にあっても、早慶戦となると闘志がわいて、燃えるのは私だけではないかと思えます。



その早慶ゴルフコンペで、私の台湾赴任後、残念ながら早稲田の団体戦勝利がなく、いつかなんとかしなければ・・・と、思っているうちに帰任となってしまいました。帰国後台湾生

活を振り返ると、早慶ゴルフコンペで勝てなかったことが頭から消えず、不完全燃焼状態であったと思うこと強く、帰国後も会社を休み、毎回自費参戦しているうちに、本年春のコンペで、とうとう対慶10連敗

という受け入れ難い、屈辱的な記録を残すこととなってしまいました。

そして迎えた本年11月3日(土) 帰国後の自費参戦回数も6度目。

下馬評では、今回も早稲田が有利！しかも大差で。でも不安と期待を胸に、勝ち栗を食べ、台北稲門会高橋会長の『10敗も11敗も一緒や。気楽に行こう！』という掛け声で薄暗い中、アウト、インに別れ、スタートし、無事ラウンドを終えました。パーティ会場に行くと、毎回パソコン集計をやってきている早稲田の長田幹事が、私の顔を見るなり、ニコツとしたのです。それが早稲田の団体戦勝利の知らせでした。いつも悔しさと肩身の狭さを感じる慶応の祝勝会のようにでしたが、今回は違いました。

早稲田、ついに団体戦を制す！雌伏6年目の感激。エール交換の後は、紺碧の空、早稲田大学校歌、人生劇場・・・と何十年か前の母校に居るような感激の中で勝利の美酒を味わうことが出来ました。あ～これで台湾でやり残したことがなくなった！とホッと、胸が熱くなる感動を覚えました。

夜は台北の新宿・日本人の飲み屋街【林森北路】で再結集、早稲田の雄叫びが夜遅くまで巷に轟いていました。母校創立125周年の記念すべき年にあげた勝利は格別で、連敗を脱出すべく、台湾校友会董会長、台北稲門会高橋会長の下、一致団結した結果だと思えます。

尚、最近帰任し日台稲門会に入会された岩永康久先輩(本年9月台湾經濟部より経済奨章を受賞)も私と同様自費参加され、勝利に貢献されたことをお伝えし、参戦報告を終えます。

台北稲門会主催 日台稲門会訪台歓迎懇親会

台北稲門会との懇親会

11月23日台湾校友会総会前夜、台北・台南館にて開催された。台北稲門会7人、日台稲門会6人、行政書士稲門会5人、千代田稲門会2人、沖縄稲門会1人、それに江夏副総長(台湾研究所所長)にもご出席頂き、計22人の校友が参集した。

台南館は観光客に知られていない現地のレストランだが、落ち着いた雰囲気と純粋な台湾料理が楽しめ、台北稲門会の常連は老板とも顔馴染みのお店であり、ここ数年は何時もここで懇親会を開催している。このような催しが出来るのは台北稲門会の長田幹事の努力

の賜物と何時も感謝している。

高橋台北稲門会会長の挨拶で開宴、1年振りの再会に話が弾み、台湾料理に舌鼓を打ちながら台湾麦酒と紹興酒で乾杯、乾杯と校友友好の輪はたちまち広がった。宴たけなわの頃、江先生が飛び入り参加し更に盛り上がった。今回は台北ゴルフ早慶戦の連敗をストップした事もあり意気盛んで、早稲田らしい明るく楽しい懇親会であった。大いに食べ、飲み、語り、翌日の台中での校友会総会での再会を約し散会した。(事務局小野間記)

スポーツ

星野ジャパン、北京五輪へ = 台湾を破り3戦全勝 - 野球アジア選手権

(12/3(一) 台中市洲際野球場)

星野監督率いる日本は10 - 2で台湾に快勝した。日本は3戦全勝、3大会連続16度目の優勝を果たし、5大会連続の五輪出場を決めた。日本は昨春のWBCで初代王者に輝いており、五輪でも初の金メダル獲得に挑む。日本が団体球技の北京五輪出場権を得たのは、サッカー男女、ソフトボール、ホッケー女子に次いで4競技目となった。野球は2012年ロンドン五輪の実施競技から除外されることが決まっており、2016年五輪以降については未定の状態。

試合は一回に新井(広島)のヒットで先制、六回には2点本塁打を浴びた。七回に西岡(ロッテ)のライト前ヒットなどで一挙6点を奪い、逆転勝ち、予断を

許さない内容であった。

台湾を率いた郭泰源監督(広岡監督時代、西武ライオンズの「オリエンタル・エクスプレス」と呼ばれたスライダー投手):「結果がこうなって残念だ。短期決戦であってはいけないミスが出てしまった。」「メンタル強化が課題」と反省。「今大会は選手の状態はすごくいいとは言えなかったが、できる限りのことをやった」と選手を労うことは忘れなかった。

試合後の星野監督、宮本主将の胸上げの時、台湾選手たちはベンチに出て日本の勝利を讃えてくれた、スポーツマンとして台湾は立派だった、と聴いています。足技・奇手の韓国と比べると、民度の差を感じます。

訃報

9/29、元幹事・高橋 保夫氏ご逝去

幹事一同名で弔電を打電いたしました。

名誉会長・村野 賢哉氏(二代目会長)ご逝去

11月23日(金)午前8時24分ご逝去(享年85)。11月25日(日)懇親者のみで葬儀終了。ご挨拶状を頂きましたので、転載いたします。なお12月12日、石川副会長、小野間幹事長が故村野名誉会長宅を弔問、ご遺影に献花をさせていただきました。

日台稲門会会員各位

村野賢哉は11月23日午前8時24分に85歳で召天いたしました。

早速お知らせ申し上げるべき処でしたが、御通知が遅れました事を深くお詫び申し上げます。

葬儀は11月25日近親者のみにて滞りなく相済ませました。

茲に生前の御厚誼を深謝し衷心より御礼申し上げます。

2007年11月

東京都大田区西蒲田3-12-6

喪主 妻 村野 祥子

TEL 03-3754-0075

長男 村野 幸哉

TEL 080-5470-3197

台湾関連NEWS

陳鴻基・駐日副代表が亜東関係協会々長に就任決定

外交部は9月26日、対日交流の窓口である「亜東関係協会」が許水徳・前会長召集の理事・監事会議および会員大会の決議により、現任の羅福全会長(72)が退任、次期会長に陳鴻基・台北駐日経済文化代表処副代表(57)が就任すると発表した。

羅会長は三年の任期中、日台関係の発展に極めて多大な貢献をされ、日台稲門会主催の「日台交流の集い」

にも度々参加された。

後任の陳氏は元立法委員で、対中独立派政党・台湾團結連盟(台連)幹部を経て、2004年から駐日副代表を務めている。また近畿大学大学院の博士号を取得しており、学識および経験も十分にあり、日台いずれの政財界にも豊富な人脈を持つ知日派。

台北駐日経済文化代表処のURLが変わりました。

新しいURLは、次のとおりです。

<http://www.roc-taiwan.org/JP>

台北駐日経済文化代表処

住所:東京都港区白金台5-20-2

電話:03-3280-7811(月曜-金曜)

会合予告

平成20年新年会のご案内

日時：平成20年1月15日(火) 18:00～
場所：新宿中村屋本店5階「レザミ」
講師：スヴェトラナ・ヴァシリューク会友

演題：「冬のロシア・お話と歌」
会費：7,000円、台湾留学生は無料招待
立食でドリンクフリーの形式です

『第12回日台稲門会定期総会・第9回日台交流の集い』のご案内

日時：平成20年4月26日(土)
定期総会 15:00～15:40
講演会 16:00～16:50
交流の集い 17:00～19:00
会場：大隈会館 定期総会・講演会 301～303号室

交流の集い 201～202号室
会費：8,000円、台湾留学生は無料招待
二次会：校友サロン
講演会・交流の集いには会員以外の方も参加できますので、奮ってご参加ください

§ 台湾関連新刊書籍紹介 §

『夫婦純愛』 金美齡著 小学館¥1,300+税



10月末金美齡先生から「夫婦純愛」を寄贈された。金先生は昨年11月に最愛の夫周英明氏をなくされ、その思いを周先生と共に歩んだ年月として刊行したものです。

お二人の出会い、結婚、子育て、台湾独立運動、そして周先生の闘病生活を淡々と綴られた夫婦純愛物語です。私が著者に始めてお

会いしたのは赴任直後の1999年、台北稲門会が開いたオフレコの講演会であったと記憶している。テレビ等で拝見するお姿よりずっと小柄で、清楚なご夫人との印象で、あの辛らつな論評と闘志の源は何であろうかと不思議に思っていた。今この本を読んで金先生の後ろには何時も周英明先生がおられたからと理解できた。日台稲門会会員の皆様に読んで頂きたいお勧めの一冊です。

「神か仏か周さんが、鬼か悪魔か金さんか」という言葉は周先生がよく口にしていた言葉だそうであるが、この項を読むとお二人の性格、家庭、愛情の深さが良く分かり、微笑ましい。(小野間記)

『台湾新幹線で行く台南・高雄の旅』 片倉佳史著 まどか出版¥1,500+税

『観光コースでない台湾』 片倉佳史著 高文研 ¥1,800+税

著者の片倉佳史氏は早稲田大学教育学部卒、出版社勤務を経て台湾に係わる多くのジャンルの本を執筆している。現在は台北に住み、過日は台北稲門会でも講演を行っている。

「新幹線の旅」は、多くの写真と自らが歩いて取材した内容がふんだんに収録され、読んでいて旅行をしている気分になる。これから台南や高雄を訪れたいと思っている人には最適のガイドブックである。JTB

時刻表11月号にも氏の台湾新幹線紹介記事や時刻表、切符の買い方まで載っており、この両方を見れば新幹線の旅もバッチリです。

「観光コースでない台湾」は台湾の歴史から全土の見所を紹介している。この本の特徴は著者が自らの足と目で取材し、それに歴史的背景を加え丁寧に執筆されているところで、正に台湾のガイドブックになっている。

私が駐在している頃読んでいたらもっと違った旅行が出来たと思っている。

何れにしるこれから台湾に行こうとしている人には必携の本と思います。(小野間記)

編集後記：まだ読んではいないが、「アサヒる」が『現代用語の基礎知識2008』(自由国民社刊)に収録されるとのこと。その意は「捏造する、デッチあげる」で「アベする」創作に由来し、「オザワる」、「フルタチる」はその派生語らしい。さて、台湾校友会訪日歓迎懇親会で台湾史上の“IF”についての話題を仄聞した。曰く、「大東亜戦争終結後、マックアーサーが松山機場に降り立っていれば、蔣中正(介石)は来なかった、というもの。「以德報怨」信奉の方には申し訳ないが、「アメリカは、日本には原爆を落とすただけだが、台湾には蒋介石を落とす」という話を思い出した。ニュートラルな日台稲門会としてはいささか問題のあるエピソードとは思いますが、編集子の手前勝手でご披露する。これがアサヒったかどうかは、読者の判断にお任せします。今号は台湾在住の校友や留学生に投稿を仰ぎ、生の情報を数多く頂きました。これも創学125周年の賜物でしょうか。これを機に次号は台湾校友会の記事も是非掲載致したく、ご協力の程よろしく願い申し上げます。(齋藤 晃)